

1 設置の目的

更なる在宅医療推進体制の構築に向けて、主に以下の項目について検討を行う。

- ・主治医・副主治医制の更なる機能強化
- ・訪問看護ステーション同士の連携等による基盤強化
- ・在宅医療へ対応可能な医師の確保 等

2 WG構成団体

柏市医師会在宅プライマリケア委員会，柏市訪問看護ステーション連絡会，柏市
東京大学高齢社会総合研究機構

3 検討内容

開催日	出席数	主な議事内容
第1回 平成29年6月1日	17名	○勇美記念財団在宅医療助成事業について ・主治医・副主治医制における機能強化に関する研究 (勇美記念財団在宅医療研究)では、小委員会を設置し、 推進中
第2回 平成29年8月7日	14名	○在宅と病院の連携について ・「病院と在宅のさらなる連携強化に向けた研修会 (地域包括ケアシステム研修会)」の開催
第3回 平成29年10月19日	15名	○訪問看護ステーションの基盤強化について ・大規模化補助金要件の追加による見直し案の検討 (看護体制強化加算等の届出がある事等) ・市内訪問看護ステーションの可視化(マッピング)

※第4回WGを1月下旬開催予定

「病院と在宅のさらなる連携強化に向けた研修会 (地域包括ケアシステム研修会)」 (中間報告)

1 目的

- ・ 柏市と柏市医師会を中心とした多職種が推進している，在宅医療体制の整備のための取組内容及び成果と課題について病院関係者と共通理解を図る
- ・ 病院と在宅とのシームレスな連携の促進

2 対象病院及び対象者

- ・ 病院連絡会議に出席依頼している 1 2 病院（市内救急告示病院及び災害拠点病院，国立がん研究センター東病院，東京慈恵会医科大学附属柏病院）
- ・ 対象者は，医師を含む病院関係者

3 内容

講話と質疑応答の 1 時間程度

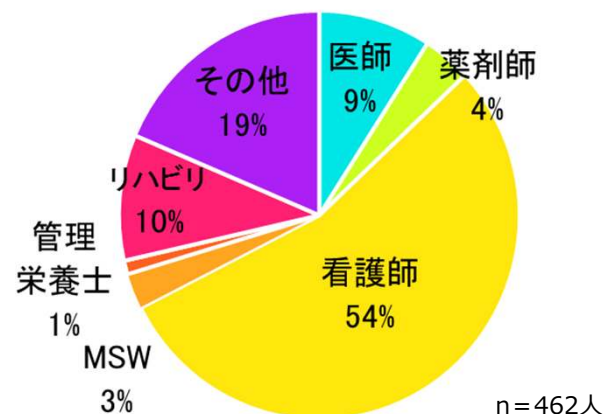
- ・ 行政より，柏プロジェクトの経緯と取組内容，柏地域医療連携センターの機能と役割等
- ・ 柏市医師会・在宅プライマリ・ケア委員より，柏モデルにおける主治医－副主治医制と病院と在宅との連携，事例紹介等
- ・ 訪問看護より，病院と在宅のシームレスな連携（看看セミナー），事例紹介等

4 開催日（予定含む）

病院名	開催日	出席者数	登壇者
おおたかの森病院	平成29年6月13日（火）	84人	古田先生，大熊会長，稲荷田
柏市立柏病院	平成29年7月10日（月）	48人	古田先生，大熊会長，浅野
柏南病院	平成29年7月14日（金）	11人	織田先生，大熊会長，鹿野
岡田病院	平成29年7月21日（金）	11人	織田先生，板倉副会長，浅野
辻仲病院柏の葉	平成29年8月4日（金）	25人	石橋先生，片岡副会長，稲荷田
柏たなか病院	平成29年8月8日（火）	102人	古田先生，板倉副会長，稲荷田
聖光ヶ丘病院	平成29年8月10日（木）	19人	古田先生，大熊会長，浅野
深町病院	平成29年8月30日（水）	51人	織田先生，片岡副会長，稲荷田
東京慈恵会医科大学 附属柏病院	平成29年9月14日（木）	97人	古田先生，片岡副会長，稲荷田
名戸ヶ谷病院	平成29年10月4日（水）	123人	石橋先生，板倉副会長，稲荷田
柏厚生総合病院	平成29年10月5日（木）	54人	古田先生，片岡副会長，稲荷田
国立がん研究センター 東病院	調整中	現時点 合計625人	

5 アンケート結果（11病院のアンケート結果を集計）

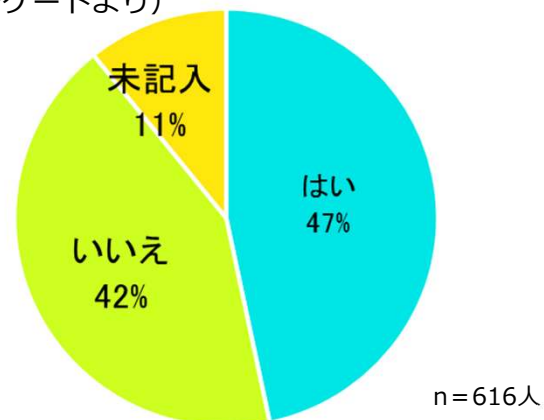
（１）出席者内訳



出席者した職種の内訳では、看護師54%と一番多く、次いでリハビリが10%であった

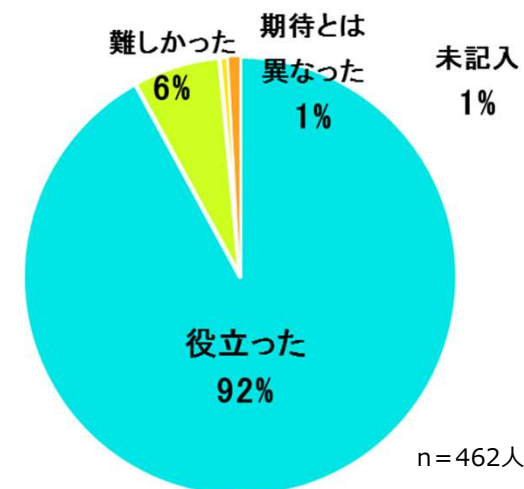
（２）在宅チームとの連携はスムーズだと思いますか

（事前アンケートより）



在宅チームとの連携がスムーズで「ある」「ない」が約半数ずつである

（３）研修会について



事後アンケートでは、**研修会の内容が「役立った」と92%**が回答している

研修会の様子

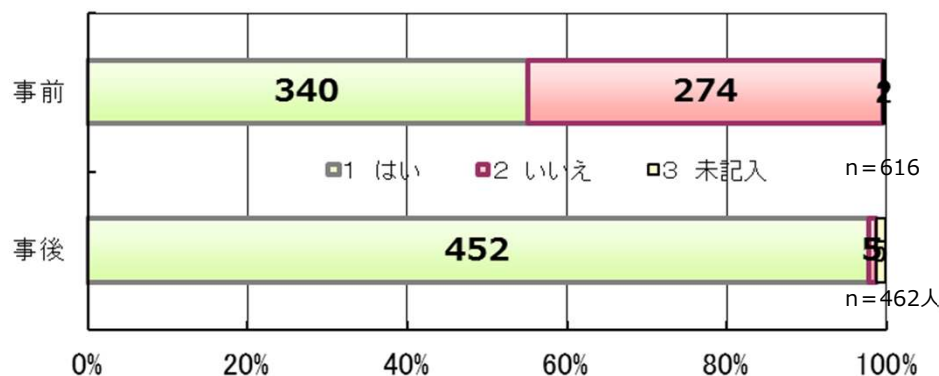


<主な意見や感想等(抜粋)>

- (医師) 外来患者にも在宅の取組を説明していく
- (医師) 柏モデルを知らない職員にアピールする
- (看護師) 柏モデルを具体的にイメージできた。
在宅移行を意識して調整したい
- (看護師) 連携の大切さがよくわかった。連携をはかっていく
- (リハビリ職) 柏モデルの背景、取組、効果を知ることよかった
- (その他) 柏市民でよかったと思える。安心できると思った

(4) 「柏モデル」の理解について

* 質問内容 (事前) 「知っていますか」
(事後) 「理解が進みましたか」



事前アンケートでは、「柏モデルを知っている」が約55%であった。事後アンケートでは、「**柏モデルの理解が進んだ**」と約98%が回答している

(6) 「柏地域医療連携センター」の認知・利用について

* 質問内容
(事前) 「知っていますか」 (事後) 「利用しますか」



事前アンケートでは、「柏地域医療連携センターを知っている」が約37%であったが、事後アンケートでは、「**今後の業務において「柏地域医療連携センター」を利用しようと思っている**」と約85%が回答している

(5) 在宅医療への移行を意識した取組について

* 質問内容 (事前) 「意識して取り組んでいますか」
(事後) 「意識して取り組もうと思いますか」



事前アンケートでは、「在宅医療への移行を意識して取り組んでいる」が約44%であったが、事後アンケートでは、「**今後の業務において「在宅医療」への移行を意識して取り組もうと思っている**」と約90%が回答している

<具体的な取組内容(抜粋)>

- ・患者や家族に(在宅の)意思を早期に確認する
- ・病院でしか継続医療が受けられないと考えている患者に、在宅でも適切な医療が受けられることを伝え、患者、家族の意思決定を支えたい
- ・このシステムが生活を支えてくれることにつながると伝えていきたい
- ・パンフレット「わがや」などの活用
- ・「帰りたい」という気持ちが実現できるように、他部門、他職種、地域と連携する
- ・退院時共同指導の実施、促す、参加する
- ・顔の見える関係等に参加する 等

(7) 入院または通院している患者において、在宅チームとの連携において、課題や提案等について

○本人・家族の理解や心構え、環境等に関すること

- ・ 本人が希望しても、家族の不安や受け入れが難しいことが多い。家族のサポートが大事
- ・ 患者・家族は病院や施設を希望される方が多く、なかなか在宅に移行する人が増えない
- ・ 在宅医療を難しく考えている人が多いため、理解してもらえるような取組が必要
- ・ 在宅介入が可能（必要）かどうかのスクリーニングのようなものがあればいい
- ・ 在宅看取りを希望でも、家族の心構えが出来ておらず最終的に救急車を呼んでしまう
- ・ 独居の方だと、どの程度の状態変化で病院に連絡するか判断が難しい

○病院スタッフの理解や環境等に関すること

- ・ 退院後の生活がわからない、在宅への理解が低い
- ・ 医療行為が多い重症患者は、在宅に移行できないと感じてしまう
- ・ 看護師は在宅へと思っても、医師等他職員が困難と考え、調整がすすまない
- ・ スタッフ間で伝達したい
- ・ 院内での情報共有のシステムを作る

○多職種連携に関すること

- ・ 各職種同士の顔をあわせる機会が少ないのではないか、連携が不十分
- ・ カンファレンスを開催したいが調整が難しい
- ・ 外来患者さんでも共同指導ができるといい
- ・ 退院時の情報も大事だが、入院する際の連絡や情報共有も大切だと思う
- ・ 情報の共有、顔の見える関係は大事
- ・ 情報共有システムが有効に活用できると思う、導入したい（救急来院を繰り返す患者さんの情報共有等）
- ・ MSW等つなぐ役割の職種や地域医療連携センターの活躍がより向上すること

○その他

- ・ このような研修会の機会は有意義
- ・ このシステムが知られていない。患者や家族に知ってもらえる活動をしてほしい
- ・ 死生観に関することもある